

まちづくりと公共交通対策特別委員会記録

1 日 時 平成29年11月29日(水曜日)

開 会 午前 9時57分

閉 会 午前10時57分

2 場 所 第2委員会室

3 出席委員 11人

委員 長 村 家 博

副委員 長 押 田 大 祐

委 員 石 森 正 二

// 上 野 蛭

// 高 道 秋 彦

// 東 篤

// 小 西 直 樹

// 松 尾 茂

// 尾 上 一 彦

// 金 厚 有 豊

// 有 澤 守

4 欠 席 者 0人

5 説明のため出席した者

副市長 中村 純

【都市整備部】

都市整備部長	高森 長仁
都市整備部次長（技術担当）	中村 雅也
都市整備部次長	舟田 安浩
参事（建築指導課長）	栗島 正憲
都市政策課長	狩野 雅人
中心市街地活性化推進課長	堀田 英樹
居住対策課長	高森 隆
交通政策課長	古西 達也
富山駅周辺地区整備課長	村井 真哉
路面電車推進課長	高田 秀昭
都市再生整備課長	守山 裕一
都市政策課主幹（調整担当）	卜蔵 雄治

【企画管理部】

企画管理部長	本田 信次
企画管理部次長	前田 一士
企画管理部次長（行政改革・公共施設再編・人事管理担当）	田中 伸浩
行政管理課長	渡辺 康裕
行政管理課長代理	山口 雅之
行政管理課班長（公共施設マネジメント推進）	熊本 真紀
企画調整課主幹（調整担当）	高橋 洋

6 職務のため出席した者

【議会事務局】

議事調査課長	福原 武
議事調査課副主幹	石黒 隆司
議事調査課主査	酒井 優

7 会議の概要

委員長 定刻前ですが、皆さんおそろいですので、ただいまから、まちづくりと公共交通対策特別委員会を開会いたします。

〔報道機関のテレビカメラ撮影を許可〕

委員長 まず、委員会記録の署名委員に、尾上委員、金厚委員を指名いたします。
これより、都市整備部所管分に入ります。
大手モールフェス及びトランジットモールの社会実験について、当局から説明を求めます。

中村副市長 〔挨拶〕

中心市街地活性化推進課長 〔大手モールフェス及びトランジットモールの社会実験について、委員会資料により説明〕

委員長 ただいまの説明について、御質問等はございますか。

上野委員 委員会資料5ページの近隣商店アンケートについてお聞きしたいのですが、これは大手通り、ユウタウン総曲輪、千石町の3カ所でア

ンケートをしたものを合計されているのですが、3カ所を分けた形のアンケート結果についてお聞きできますか。

中心市街地
活性化推進課長 すみません。アンケートの細かい内訳までは持ち合わせておりませんので、詳細につきましては、調べて、後ほど、御報告させていただきたいと思います。

上野委員 ぜひお願いします。アンケートはまとめられています、「変わらない」というものが両方とも50%近くあるので、恐らく地域によっては「変わらない」というものが50%以上あるのではないかというふうに思います。それが課題につながるのではないかなと思います。よろしくお願いします。

尾上委員 関連してですが、近隣商店ではこのイベントに合わせて何か特別なことをされたのかどうか、何かお聞きになっておられますか。

中心市街地
活性化推進課長 大手モール振興会と千石町通り商店街振興組合が共同で、この期間中に使える飲食店のチケットを発行されています。また、ユウタウン会におきましても、オープンカフェの設置等をしていただいております。

尾上委員 ありがとうございます。

東委員 今回のアンケート結果で若い家族連れの方にぎわい、人手が多かったということに関連していると思いますが、先ほどもありました近隣商店の売り上げについて、「変わらない」というものが半分です。「多かった」という回答も多いのですけれども、「変わらない」ということです。やはり若い人たちはお金がない—可処分所得が少ない中で、イベントがあるからそこに行って滞在してお金を使わずに楽しもうという傾向が結構あるのではないかというふうに感じます。それと委員会資料8ページの「イベントに合わせてトランジットモールを定期的に行った方が良いと思う割合」において、近隣商店の3分の1が「どちらともいえない」ということで、やはり売り上げが上がらないのなら、やるのはどうかなという思いもあるのだろうと思います。したがって、今回の実験を1回限りにするのではなく、近隣商店等のいろいろな人と話をし、これから経済活性化にどうやってつなげていくのか。やはり中心街に来ていただいて、お金を消費していただくことによって、富山市の経済を盛り上げることに関連させていかないと、このイベントを行っても意味が

ないというか、そういうことだと思うので。
これからの対策について考えていることが何かあれば、今、お話しください。

中心市街地
活性化推進課長 今回のイベントは対象を家族連れといたしますか、若い世代をかなり重視して、ウエートを組んでおりますので、来街者の年代層と既存のお店の年代層が若干ずれていたのかなということがあります。今後はそういったものも加味しながら、世代なり、お店に合った客層を呼べるような事業にしていきたい、イベント等を組んでいきたいと考えております。

東委員 具体的に近隣商店等と市サイドで、これからのイベントに向けて話し合いをするような機会は設けるのでしょうか。

中心市街地
活性化推進課長 このイベントの実施主体は大手モール周辺賑わい創出実行委員会でございます。こちらはそれぞれの地域の方々に構成されており、先日も開催させていただいております。今後もその方々と協力して実施したいと考えておりますので、実行委員会等でそういった話しを煮詰めていくことにしております。

東委員 ありがとうございます。その結果も、この特

別委員会等で教えていただければありがたい
と思います。よろしくお願いします。

尾上委員

大手モールフェスとの関連はわからないので
すけれども、この日、富山駅南でもイベント
というか出店が出ていました。私はこのイベ
ントを知っていましたので、自宅から富山駅
までバスに乗って、そこで少しお酒を飲んだ
り物を食べたりしました。そこで環状線の無
料乗車券をいただいたので、今度は電車に乗
って大手モールまで行って、大手モールフェ
スを体験しました。富山駅南でもイベントを
行っていました。認知度が低かったのか、
大手モールフェスとの関連が本当はなかつた
のか、そこら辺はわからないのですけれど、
とても閑散としており、私にはちょっと盛り
上がり欠けているなというイメージがあつ
たのです。先ほどの話にもありましたが、そ
の辺をもう少し広域的に取り組むと、もっと
もっと来場者を増やすことができると思いま
す。その点はいかがでしょうか。

中心市街地
活性化推進課長

富山駅南では、SAKE BARというイベ
ントを実施しておりました。こちら私ども
のイベントの1つでございます。SAKE
BARをご利用された方には、国際会議場前、

大手モール停留場までの乗降車が無料になる特別乗車券を配布しておりまして、まちなかの回遊性を高めるという取組みも行っておりました。今回は富山駅南のSAKE BARも含めまして、グランドプラザや城址公園等でのいろいろなイベントと連携して、まちなかの盛り上がりや回遊性を高めるイベントを行っております。今後も連携した形でまちなかを回遊できるような取組みを広げていきたいと考えております。

尾上委員 ちなみに富山駅南で配布した特別乗車券で電車を利用された方は、多分把握できるのではないかと思っておりますが、富山駅南のSAKE BARの利用者はどのくらいだったのですか。

中心市街地
活性化推進課長 10月14日に特別乗車券を配布しておりまして、配布枚数は400枚でございます。実際に御利用されたかどうかという数字まではわかりません。

尾上委員 もう1つ質問ですが、音楽を聞きながら市内電車に乗るイベントもありましたか。城址公園の前に順番待ちの人がかなりいらっしまったように見えたのですが、それについても関

連する事業だったのであれば、説明していただければありがたいと思います。

中心市街地
活性化推進課長 城址公園ではTOYAMA米奏動というイベントを行っておられまして、そのイベントが主体となり運行されたもの、あとはチーム富山市ーグランドプラザで環境部が行っておられたイベントの関係で貸し切り運行されたもの、あとは市立図書館が主体で絲山 秋子さんの講読会の特別電車等も運行されていきました。全て関連したイベントであり、大手モールフェス及びトランジットモールの社会実験を盛り上げるイベントの1つとして実施していただいているものでございます。

尾上委員 どのくらいの乗車人数だったのですか。

中心市街地
活性化推進課長 すみません。把握しておりません。

尾上委員 全く把握しておられないのですか。

中心市街地
活性化推進課長 すみません。把握しておりませんでした。

尾上委員 ありがとうございます。

委員長 ほかにございませんか。
よろしいですか。

〔発言する者なし〕

委員長 ほかにないようですので、この程度にとどめます。
以上で、都市整備部所管分を終了いたします。
都市整備部の皆さんは、退室願います。
説明員を交代いたしますので、しばらくお待ちください。

〔都市整備部退室／企画管理部入室〕

委員長 これより、企画管理部所管分に入ります。
富山市公共施設マネジメントアクションプラン（素案）について、当局から説明を求めます。

企画管理部長 〔挨拶〕

行政管理課長 〔富山市公共施設マネジメントアクションプラン（素案）について、
委員会資料により説明〕

委員長 ただいまの説明について、御質問等はござい

ますか。

小西委員 パブリックコメントを本年12月から行っていくと言われましたけれども、場所はどのようなふうにご考えておられるのですか。

行政管理課長 パブリックコメントはルールといたしまして、基本的には全データを市のホームページで公開いたします。御意見はそれをごらんいただいた上で、メールなどを通じて、あるいは直接御意見をいただきたいということです。

小西委員 直接というのは、その地域へ行って意見を聞くということですか。

行政管理課長 そういう意味ではございません。直接というのは、直接御意見をお持ちいただくというケースもございますし、手紙やメールで送っていただく場合など、いろいろなケースがございますけれども、基本的には御意見をいただくということでございます。

尾上委員 関連してですけれども、全ての人が必ずしもインターネットを利用できるとは限らないのですが、資料の写しを各行政サービスセンターに配置して、行政サービスセンターに行け

ばその意見を述べられるというような取組みをされる予定はありますか。

行政管理課長 基本的にパブリックコメントについてはインターネットに公開するということと、インターネット環境でごらんいただけない方のために全文を市政情報コーナーに置いて、御意見をいただくことはしています。さらに今おっしゃいました、各地域においてもその全文を置いた上で、そういった対応はしていきたいと思えます。

尾上委員 よろしくお願ひします。

小西委員 具体的な中身ですけれども、集会施設は各校区に1カ所の配置が目標ということになっているわけですが、校区によっては広い校区や公共交通機関がなかなか行き届かない校区もあると思えます。恐らくこういうことが出てくると思えますが、仮にどこかの集会施設が決まったとしても、校区だとか地域的な問題で2カ所や複数にするということも大いに考えていかなければならないのではないかと思えます。

行政管理課長 先ほど申しましたが、まず財源不足のために、

かなりの部分を検討していかなければならない状況でございます。そこで総合管理計画では方向性として、一つに集約化していくというものがあります。この方向性はキープしていかなければならないというふうには考えております。ただ、地域の状況なども踏まえていかなければならないことから、地域別の実行計画もこれから考えていただきますので、その状況次第によっては、全く否定するものではないというふうに考えております。

尾上委員

基本的な考え方として、やらなければならないということとは私も重々わかっているのですが、やり方として1かゼロかという考え方ではなくて、1を0.6くらいにして、耐震化費用を削減しながら、ある部分だけを残す。今の建築技術は大変進んでおりまして、ワイヤーカッターなどで切って、設備を小さくして維持するということも十分可能だと思います。今の考え方を聞きますと、1かゼロかというふうに聞こえるのですが、そこら辺の考え方はどういうものでしょうか。

行政管理課長

1かゼロかということではございません。施設が継続というもののや複合化、あるいは類似した機能のものを集約化していくというもの

があります。その際には、今おっしゃったような1かゼロかではなくて、サイズを小さくしながら、そちらの方に機能を取り込んでいくということがございます。今おっしゃったような技術もいろいろとあるかと思えます。その際には、再整備なども行っていくことが考えられます。そのときには、総合管理計画で指針も示しておりますけれども、PPPの手法なども活用しながら、そういうことも考えていきたいと考えております。

尾上委員

そういうことも含めて、何でもかんでもなくしていくということではなくて、限られた予算の中ではありますが、何とか維持していけるような考え方の中から、削減というものをしていく、廃止しなければならないものは廃止するという考え方を持っていただきたいなと思えます。

上野委員

パブリックコメントに関連してなのですが、今、説明されたとおり、自治振興会さんなどの名前が出てきたのですが、例えば学生の方ですとか、若い世代の方たちにはどのようにアプローチをされる予定なのでしょうか。

行政管理課長

パブリックコメントにつきましては、自治振

興会に個別にということではなく、広く意見を求めるということでございます。先ほどの自治振興会でというのは実行段階でということでしょうか。そこについては、施設によっていろいろとあるかと思えますけれども、一定程度、地域の方や利用者の方などいろいろな方の御意見を踏まえながら調整していくことになるかと思えます。地域別実行計画については、その地域にいらっしゃる方—どういふふうに設定していくかはこれからでありますけれども、住民の方に参加していただきながら計画を策定していくということになります。

上野委員 将来的に見て、長い間の計画ですので、若い世代の方たちに積極的にかかわっていただけるような形で意見の集約をしていただければと思います。

委員長 要望ですね。

行政管理課長 この計画は、40年間の計画ですので、例えば、今30歳の方は70歳になります。これから生まれる方は40歳になります。それほどの計画ですので、幅広い世代の方から御意見を求めながら進めていかなければならない

というふうに認識しております。

松尾委員

お願いですけれども、いろいろな面で市民からの意見を聞いていくといつもおっしゃられますが、パブリックコメントを募集したけれども意見がありませんでした、これだけしかありませんでしたということをよく聞きます。パブリックコメントを意見としてしっかりあげていただく努力というか、そういったものをしっかりやっていくべきだろうなと思っております。なかなか難しいことだとは思いますが、そういった努力をしっかりとお願いしたいと思っております。よろしく申し上げます。

行政管理課長

パブリックコメント全般につきましても、行政管理課が所管しております。今おっしゃった点など、改良点が多々あると思っておりますので、その点についても検討していきたいと思っております。

小西委員

委員会資料14ページ、15ページでは、特に山田地域において非継続というものが非常に多いです。この前もテレビでやっておりましたが、山田地域の過疎化が進んでいることから、やはり山田地域のにぎわいというかそういうものの計画などを立てる必要があると

思います。その辺について何かお考えはありますか。

行政管理課長 委員会資料14ページ、15ページに記載してございます48施設については、既然大分前から取り組んでおりまして、地元の方々と調整しながら進めており、その状況を記載したものでございます。今おっしゃいました各地域にはそれぞれの特性というものなどがありますので、今後それを踏まえていかなければならないと思っております。それは地域の実行計画なども含めて、市全体を見ながら考えていかなければならないというふうに認識しております。

東委員 市の財政が厳しく、人口も減っていく中で、現状の公共施設の維持というものが大変厳しいというのは、市民の皆さんも理解されると思います。ただ、きょう出された委員会資料4ページ以降にある個別具体の公共施設の名前が実際に出ていくわけです。そうすると、これを見た方はわかっているけど、うちの地域のこの施設がなくなるのか、そうは言ってもこれがなくなるとは困ると住民の皆さんは問題意識を持たれると思います。一方で、パブリックコメントを行いますとか、住民説明会

をやりますといっても、日々忙しい中でなかなかわからずに、いざなくなることが決まったりなくなったりした時点で、一体どうなっているのだという市民も多く出てくると思います。本当に丁寧にいろいろな媒体を使って、わかりやすい資料を一戸一戸に配るなどしながらやっていかないと、逆に市の説明が十分でなかったと、市民から市に対する厳しい批判ですとか、不信感が出てくるおそれがありますので、本当に丁寧にやってほしいというのが、私の要望です。

委員長

要望ですね。

部長、何か総括はありますか。

企画管理部長

きょうは各委員の皆様から、まさに貴重な御意見を賜りました。これはあくまである公式ルールによって導かれた方針であり、これが最終決定のものでは毛頭ありません。今後、地域の現状でありますとか課題というものを、地域住民の皆さんの御意見をお伺いしながら、地域別の実行計画をつくっていくこととなりますけれども、やはり現在市民の皆さんのサービスというものを維持するということも非常に大切でありますし、将来市民の負担を少しでも軽くしていくということも非常に重要

であります。こういった点も踏まえまして、今ほどいただいたパブリックコメントについて、もっと積極的に皆さんから御意見を寄せていただけるようなという御指摘も踏まえまして、今後事務を進めてまいりますので、どうかよろしく願います。

委員長 ほかによろしいですか。

〔発言する者なし〕

委員長 ほかにないようですので、この程度にとどめます。
以上で、企画管理部所管分を終了いたします。これをもって、まちづくりと公共交通対策特別委員会を閉会いたします。

平成29年11月29日
まちづくりと公共交通対策特別委員会記録署名

委員長 村家 博

署名委員 尾上 一彦

署名委員 金 厚 有 豊